

第三者評価結果報告書

総 括	
対象事業所名	ポピンズナーサリースクールセンター南（2回目受審）
経営主体(法人等)	株式会社ポピンズ
対象サービス	児童分野 保育所
事業所住所等	〒224-0032 横浜市都筑区茅ヶ崎中央40-3 グランクレールセンター南1階
設立年月日	平成22年4月1日
評価実施期間	平成28年9月 ～ 平成29年3月
公表年月	平成29年4月
評価機関名	NPO中小企業再生支援第三者評価事業部
評価項目	横浜市版

総合評価（事業所の特色や努力、工夫していること、事業者が課題と考えていること等）

【施設の立地・特徴】

・立地及び施設の概要

株式会社ポピンズが運営するポピンズナーサリースクールセンター南は横浜市営地下鉄ブルーライン・グリーンラインのセンター南駅より徒歩5分のビルの1階にあります。

園は平成22年4月1日に開設された、0歳から5歳児の定員50名の小規模な保育園で、現在49名の園児が在席しています。園の大道路を隔てた北側には、広大な自然を有する都筑区中央公園があり、また、徒歩15分以内に多くの公園があり、園では子どもたちの発達に合わせて選択し、散歩、運動に利用しています。

・特徴

園の具体的な保育手法として「エデュケア」（education教育、care 保育の合成語）があり、これを実践する上で園は、ポピンズアプローチという独自の手法により子どもの成長を支援しています。ポピンズアプローチでは子どもの成長における重要時期は「0才から」として、子どもの知力を、言語・音楽・論理数学・空間構成・身体運動・自然科学・社会性・自己受容の8つの領域に整理し、「知力8（エイト）」と名付け、子どもの発達状況を勘案して、これらをベースとして組み合わせてカリキュラムを構成・実践しています。

【特に優れていると思われる点】

1. 0歳からの保育教育

子どもの発達には0歳から始まっており、「小さいから」「できないから」ではなく、初めは緩やかに進んでいき、やがては一気に習得できるようになります。よって園は、根気よく、気長に子どもに寄り添い、一人一人の才能と個性を伸ばす保育を実践しています。子どもは家よりも園で過ごす時間が長いので、園を第二の家庭として位置づけ、職員全員で子どもを見守り育てています。

2. 落ち着いて人の話を聞く習慣

系統だった保育手法を0歳児からも始めることにより、小さいうちから「人の話を聞く姿勢」が身に着くようになっていきます。保育士が話を始めると1歳児でも声のする方向に向き直り、内容は理解できなくても耳を傾けています。園での日々の生活の中で「落ち着いて静かに人の話を聞く姿勢」が出来上がっていました。

3. 子どもの口から保護者に情報を伝える伝達力の養成

行事などのお知らせは事前に園より保護者に伝えていますが、大きい子のクラスでは、今日の保育園での生活内容を、子どもの口から保護者に伝えるようにしています。園目標の中にある「グローバル社会で活躍できる人間」の基礎作りの一歩として「正しく人に情報を伝える」を習得する教育です。保護者には事前にその旨、主旨を説明し、了解を得て進めています。正しく伝えられたときには、褒めてあげて自信を持たせるようにと、保護者にはお願いしています。

【特に改善や工夫などを期待したい点】

1. 子育て専門家集団としての地域へのさらなる貢献を

地域の子育て世代は、色々な子育ておよび、その準備に不安を持ち、相談相手を求めています。よって、地域に対して一週間単位で曜日、時間を決めた子育て相談の積極的な案内や、地域への子育てや保育に関する講習・研修会の開催を期待いたします。

評価領域ごとの特記事項

<p>1.人権の尊重</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ポピンズナーサリースクールの保育コンセプトは“愛情と安全に満ちた環境の中で、すべての子ども達に、洗練された振る舞いと、知能を発達を促し、将来聡明で愛情深く、独立心旺盛な社会の一員に成長するように、手助けすることにある。①自宅の居間で、兄弟が穏やかに育つような環境づくりを心掛ける、②保護者の教育方針を重視する、③基本的生活習慣（生理学的理論）に基づいた保育の実践、④カリキュラムは完遂を目的とするのではなく、プロセスを重視する”としています。 ・年間計画に人権研修を盛り込み、毎年実施しています。子どもに対して好ましくない対応や言葉遣いをテーマに挙げて職員会議で意見交換し、常にきれいな言葉、正しい日本語を使うように心がけています。 ・子どもが一人になりたい時や落ち込んだ時には、応接室やワンルームを仕切ったコーナーがあり、友達や保育士の視線をあまり意識せずゆっくり過ごすことができます。自分の思いを伝えられない子どもには、安心して話しやすいように保育士や場所を変えるなどの環境設定の工夫をしています。 ・職員は新任採用時に個人情報の守秘義務についての説明し、誓約書を交わしています。また、研修やガイドライン・マニュアルに従って、個人情報の取り扱いについては全職員が周知しています。 ・虐待の予兆発見に関しては、絶えず子どもの様子に気を配り、健康確認を充分に行い不審な怪我やあざ等の発見に努めるようにしています。場合によっては、写真を撮り記録に残すことにしています。
<p>2.意向の尊重と自立生活への支援に向けたサービス提供</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・年2回、保護者に保育方針が理解されているか、法人全体でアンケートを実施し、把握しています。園の集計では94%の人が保育の目標や方針についての説明に満足と答えている。また入園時に配布する重要事項説明書に教育方針と保育姿勢を明記し、玄関入口に保育方針を掲示しています。 ・設置法人はポピンズサービスの哲学として、“私たちは、子ども一人一人独立した存在として尊敬し、個性を伸ばし、子どもの尊厳、独立心、権利を守る”、“私たちは、子どもの養育に責任を持つ者として、①子どもの習慣・価値観・精神的信念を認める、②両親及び子どもの要求を尊重する、③プロとしての心と能力を高め、維持し発展させる、④業務上知り得た情報に関し秘密を厳守する”を打出し、子ども、保護者本位の保育を宣言しています。 ・保護者に対して、0～2歳児は「ポピンズメモリー（連絡帳）」に毎日、その日の様子を記載し、3歳以上は必要時「ポピンズメモリー」に記載しています。年1回

	<p>の個人面談では保護者から質問を受けたり、意見交換を行っています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員は常に公平感を持って子どもに接し、目線を同じくして子どもの思いを受け止め、慈しみのある優しい言葉で話しかけ、信頼関係を築けるよう努めています。子どもの年齢や発達状況に合わせて対象公園を選択しています。遊具を中心とした公園、かけっこなど運動能力を高められる公園とに分けています。園内でも平均台、フラフープ、トンネルくぐり、移動の鉄棒、玉入れなど運動能力を高め、体力増進を心がけています。 ・トイレトレーニングについて、0～2歳児は「排泄チェックリスト」をつけて一人一人のリズムを把握し、個人差のあることを尊重し、ストレスにならないように配慮しています。
<p>3.サービスマネジメントシステムの確立</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・施設長や年長児担任は地域の都筑区幼保小交流事業や地元保育園連絡会などに参加し、地域での保育事情を検討し合っています。地域から得られた情報により、地域ニーズにどのように対応するか、保育課程作成時に職員間で討議しています。 ・入園前の保護者からは「児童票」「児童健康票」「お子様について」などを提出してもらい、子ども同伴の面接を行っています。園からは施設長、看護師、栄養士などが面接に立ち会い、保護者の育児方針（教育方針）や意向や提出書類の記載内容の確認などを行い、面談結果は園の「面接シート」に記録し、個人ファイルに取入れ、職員全員で内容を共有し、保育に活かしています。 ・保育課程はポピンズサービスの哲学、株式会社ポピンズの教育方針、ポピンズナーサリースクールの保育コンセプトをベースとして策定しています。園は子どもにとって第2の家庭という園コンセプトを打出し、保育課程作成のベースとしています。 ・アレルギー食は「手配書」を見ながら栄養士が調理し、子どもの名の入った他とは色の違う専用トレーに除去食を入れた食器を並べ、各々の食器にラップ掛けをし、除去食には黒マジックペンで丸印を付け、さらにトレーには除去内容を書いたラベルを張り付けています。保育士に手渡す時も「手配書」と「ラベル表示」を声に出して読み合わせています。結果としてはトリプルチェックにて子どもの口に入る仕組みである。アレルギー食を子どもに配膳をする保育士は黄色のエプロンを着用することで周りの職員からも、重要な任務が遂行されていますことが意識される様にしてしています。 ・嘱託医による健康診断は年2回、歯科健診は年1回実施し、結果は保護者に伝えていますが、気になることがある場合は、受診を勧めています。嘱託医より、アドバイスや情報をもらい連携を図っています。 ・毎月避難訓練を実施し、散歩中の不審者対応訓練も計画的に実施しています。毎年、救命救急講師による救命救急講習を全保育士が受講しています。AEDの設置は同敷地内1階に設置しています。 ・園の家具など落下や転倒のおそれのあるものは落下防止、転倒予防策がとられ金具で固定し、窓ガラスも安全面から飛散しないガラスを使用しています。 ・苦情の受付に関しては、苦情受付担当は主任で苦情解決責任者は施設長、さらに第三者委員2名の連絡先を玄関フロアに掲示しています。受け付けた苦情について

	<p>は解決までに「苦情解決処置経過報告書」に対応内容、経過を解決するまで無期限に記録を続けることになっており、途中では放置できない仕組みになっています。</p>
<p>4.地域との交流・連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・設置法人代表の保育園に関する記事は、全国紙にたびたび掲載され、園の情報も合わせ、報道されています。都筑区の幼稚園・保育園紹介冊子には保育所として、サービス内容の詳細、料金、職員体制等、必要な情報を掲載しています。 ・年間数100件の見学受け付けがあり、その折には保護者からの育児相談を受けて、即対応しています。見学者に対しては保育所の基本方針や利用条件・サービス内容等について、パンフレット等で分かり易く説明しています。 ・都筑区及び周辺地域保育園で行う「保育園ひろば」にはドッジボール大会など全面的に協力し、交流を図っています。また地域の高齢者施設「夢フルディサービス」には3歳児が敬老の日を含め、定期的に訪問し、歌や踊りや昔のゲーム遊びなどで交流しています。地域の小学校とは就学対象年長児の学校授業体験、学校内探検などで訪問し、年長児クラス担任職員は学校の公開授業参観に出向き、体験談を年長児保護者に伝えています。 ・施設長や年長児担任は地域の都筑区幼保小交流事業や地元保育園連絡会などに参加し、地域での保育事情を検討し合っています。地域から得られた情報により、地域ニーズにどのように対応するか、保育課程作成時に職員間で討議しています。
<p>5.運営上の透明性の確保と継続性</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・設置法人株式会社ポピンズのサービス哲学に「倫理」「コンプライアンス」が明記されていて、職員は入社時に必ず研修を受けています。経営状況については設置法人のホームページに内容が詳しく掲載されています。設置法人の全体会議や幹部職員候補生向けの「インテンシブセミナー」のテーマとして、他園の不正、不適切事例を取り上げ、ケーススタディしています。 ・ポピンズコーポレーションの教育方針は“一人一人の才能と個性を伸ばし、人間性豊かで創造性に富む人間を育成する。①グローバル社会で活躍できる人間、②寛容な人間、③聡明で愛情深い人間、④独立心（探究心）旺盛な人間”も合わせ、保育のベースとしています。 ・新入園児の保護者に対しては、入園前説明会にて、ポピンズサービス哲学や教育方針、保育コンセプトなどを「重要事項説明書」をもとに、十分に説明し、理解してもらっています。また、園だよりとしてのNews Letterにも掲載して説明しています。
<p>6.職員の資質向上の促進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・設置法人には経験年数や役職に伴う「人材育成プログラム」があり、このプログラムにそって研修計画などを作成しています。 ・設置法人には保育所や職員一人一人の法人理念や基本方針、保育課程にそった「評価シート」があり、園ではこのシートにそっても自己評価を進めています。また、各職員は毎年「エバリエーションシート（個人目標）」を立てて施設長に提出し、年2回自ら達成度を評価、自己査定し、施設長と個人面談しています。 ・設置法人のホームページには「webポピンズ学習システム」があり、職員およびパート職員は日中の休憩時間や帰宅後の家でも随時学習できるシステムが確立しています。 ・設置法人の系列園で行われる「公開保育」に職員は積極的に参加し、他園の保育

状況を体験しています。受講した職員の「研修報告レポート」を施設長はよく吟味して、以後の職員受講予定テーマを取捨選択しています。

• 園には実習生、ボランティア共にマニュアルがあり、受入れ時は、職員には職員会議で、保護者には運営委員会で受け入れの主旨を説明します。プログラムは学校や実習生からの希望実習ポイントで修正することはありますが、責任実習、部分実習の基本的なプログラムは用意しています。実習最終日にマニュアル上、意見交換をして感想を必ず記録することになっています。